

群 教 セ	G06 - 02
	平15.214集

# 楽しさや喜びを実感する器械運動の 指導の工夫

- 仲間とかかわり合う活動を取り入れて -

特別研修員 須藤 真 (渋川市立金島小学校)

## 主題設定の理由

現在、児童を取り巻く環境は大きく変化している。スポーツ少年団や各種スポーツ教室等で熱心に活動している児童が多い反面、家庭に帰っても、児童同士で遊ぶことが少なくなり、室内でのゲーム遊びや学習塾へ通う児童が増えている。その結果、活発に運動をする児童とそうでない児童の二極化が進んでいる。

また、遊びや運動など集団の様々なふれあいから生まれてくる友達関係があまり見られない。特に他人と自分との違いを認め、互いに協力し合って活動する体験が減り、友達に対する関心が薄くなっている傾向があると考えられる。

このような現状から、教師としては、児童一人一人が自分の思いをもって、仲間と考えたり喜び合ったりしながら、楽しく遊びや運動に取り組める子どもたちになってほしいと願っている。

本校の6年生に体育に対する意識調査をしたところ、ほとんどの児童が体育は好きと答えている。領域別でみると球技のような集団的な運動を好んでいる反面、器械運動や陸上運動などの個人種目の運動に対しては苦手意識が見られた。これは、スポーツ少年団の活動や休みの時間の過ごし方からサッカーなどの球技が身近で関心が高いためと思われる。また、器械運動のように、「できる」「できない」がはっきりしている運動については負担を感じている児童も多い。これは、器械運動の楽しみ方である「今もっている力で楽しむ」や「新しい技を追求することで楽しむ」という、経験が浅いためと考える。

これまでの授業では、個人的なスポーツの特性から自己の技の習得に向かって努力することが中心の活動となり、自分自身や仲間のよさに気付くことが難しく、苦手意識をもっているために意欲的に取り組むことができなかった。また、教師側の意識の中にも、できるようにしてあげたいという克服的なとらえ方が強かったため、児童が楽しみながら学習できるような学習形態の工夫や指導方法・支援が不足していたことも原因の一つといえる。これらの課題に対し、仲間とかかわり合う活動を取り入れることは、励まし合ったり教え合ったりする中で、自分自身や仲間の良さに気付くことができ、個人的なスポーツも集団的なスポーツと同じように、運動を楽しみながら取り組むことができると考える。

そこで、器械運動の指導において、仲間と共に見合う・励まし合う・教え合う・認め合うなどかかわり合う活動を取り入れることによって運動の楽しさや喜びを実感することができると考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

器械運動の学習において、仲間とかかわり合う活動を取り入れることは、運動の楽しさや喜びを実感するうえで有効であることを、実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 つかむ過程において、仲間と見合ったり励まし合ったりする活動を取り入れ、ゲーム的要素のある運動を行えば、運動の楽しさを味わうであろう。
- 2 追求する過程において、仲間と教え合ったり工夫し合ったりする活動を取り入れ、集団演技を行えば、学習に対する意欲が高まるであろう。
- 3 まとめの過程において、仲間と認め合う活動を取り入れ、発表会や話し合う活動を行えば、運動の楽しさや喜びを実感するであろう。

## 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

#### (1) 「楽しさや喜びを実感する」について

運動の楽しさや喜びとは、運動の特性にふれ活動すること自体が楽しいということや技能の習得や体力の向上を目指すということだけではなく、仲間と共に励まし合ったり工夫したり教え合ったりする中で課題を解決し、その成果を認め合うことで味わえる楽しさや喜びであると考えられる。

しかし、器械運動は、「できる」「できない」がはっきりするため、できればだけに視点を当てた授業では、楽しさや喜びを十分に味わえないことが多い。そこで、器械運動におけるいろいろな楽しさや喜びを多くの児童が体験できるよう、次の3点に十分にふれたいと考える。

#### 仲間と一緒に活動する楽しさや喜び

個人差や経験の違いがあっても、互いに励まし合い認め合いながら一緒に活動する楽しさや喜びである。

#### 工夫して活動する楽しさや喜び

個人差を認め、仲間と共に演技構成を工夫したり、課題を解決するための方法を選んだりなど、工夫しながら活動する楽しさや喜びである。

#### 成果を認め合う楽しさや喜び

仲間と作りあげた集団演技を発表会で一緒に演技したり、話し合いの活動をしたりすることで、成就感を共有することができる楽しさや喜びである。

#### (2) 仲間とかかわり合う活動とは

仲間とかかわり合う活動とは児童が楽しく運動するために、友達同士互いに見合う・励まし合う・教え合う・協力しながら工夫し合う・認め合うなどの活動を行うことである。本研究では具体的な活動として、つかむ過程ではゲーム的要素の運動を、追求する過程では集団演技を、まとめの過程では発表会や話し合いを取り入れることにした。

ゲーム的要素の運動とは、数名のグループで行う準備運動的な活動である。あまり勝負にこだわりすぎないようにし、仲間と共にその運動を楽しむものである。集団演技とは、数名のグループになり、個々のできる技とできない技の違いがある中で、自分のできる技を取り入れながら、みんなで演技構成を工夫したり課題を追求したりするものである。意見交換とは演技発表のあとに、他のグループから意見や感想を聞いたり、仲間のよさに気付いたりする活動である。このように、仲間とかかわる活動を取り入れることにより、一人で運動に取り組んでいたときよりも、課題を明確にすることにより意欲が高まり、仲間と活動する楽しさ、課題を解決していく楽しさ、できた喜びや共に学んだ成就感を共有することができると思う。

## 2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような計画で授業実践及び検証をする。

### (1) 授業実践計画

対 象	渋川市立金島小学校 6年2組 (男子25名、女子15名 計40名 )		
単元名	マット運動	時期・時間	平成15年10月下旬から 7時間予定

### (2) 検証計画

検証項目	検 証 の 観 点	検証の方法
見通し1	つかむ過程において、仲間と見合ったり励まし合ったりする活動を取り入れ、ゲーム的要素のあるマット運動を行うことは、マット運動の楽しさを味わううえで有効であったか。	・学習活動の観察 ・学習カードへの記述の分析
見通し2	追求する過程において、仲間と教え合ったり工夫し合ったりする活動を取り入れ、マットの集団演技を行うことは、学習に対する意欲を高めるのに有効であったか。	・発言の観察 ・学習活動の観察 ・学習カードへの記述の分析
見通し3	まとめの過程において、仲間と認め合う活動を取り入れ、発表会や話し合い活動をするには、マット運動の楽しさや喜びを実感するうえで有効であったか。	・学習活動の観察 ・発言の観察 ・学習カードへの記述の分析

### (3) 抽出児童

A	運動能力は高いが個人プレーに走りがちである。本単元では、自分の能力を生かしながら仲間と教え合ったり励まし合ったり、認め合ったりする活動を通して、ともに活動するよさに気づくようにし、運動の楽しさや喜びを実感できるようにしたい。
B	友達と一緒に活動することが苦手で、運動に対して関心が薄く、自分から進んで取り組むことは少ない。本単元では、自分の今もっている力で楽しめる運動で、教え合ったり励まし合ったり、認め合ったりする活動を通して、運動の楽しさや喜びを実感できるようにしたい。

## 研究の展開

### 1 単元の考察、目標及び評価規準

単 元 の 考 察	<p>マット運動では、主として回転する技や倒立する技の中から自己の能力に適した技を易しい条件の下で取り組み、それらの技が正確にできるようにするとともに、同じ技を繰り返したり、技を組み合わせてたりして楽しむものである。</p> <p>本単元では、仲間とかかわる活動を取り入れ、ゲーム的要素のある運動や集団演技を行うことにより、これまで克服的なイメージの強かったマット運動の楽しみ方が広がると考える。</p>	
目 標	<p>○自分の力にあった技をより良くしたり、練習方法を工夫して新しい技に挑戦したりすることができる。</p> <p>○自分のめあてをもって、仲間と協力して運動したり、器械・器具の使用の仕方を工夫して安全にマット運動をしたりすることができる。</p>	
評 価 規 準	<p>おおむね満足できる状況</p> <p>運動や健康・安全への関心・意欲・態度</p> <p>・課題をもって進んで取り組もうとしている。</p> <p>・仲間と互いに教え合い補助するなどして安全や約束に留意して運動しようとしている。</p>	<p>十分満足できる状況</p> <p>・自分の力にあった技に進んで取り組み、マット運動の楽しさや喜びを味わおうとしている。</p> <p>・仲間と互いに励まし合い、教え合い、補助するなど協力して、器械や器具の安全な使い方や約束に留意して運動しようとしている。</p>
	<p>運動や健康・安全についての思考・判断</p> <p>・自分の力にあった技を選び、学習カードや補助具を活用して場や仕方を選んで練習している。</p>	<p>・自分の力にあった技や新しい技を選び、学習カードや補助具を活用して、自分に適した場や仕方を工夫して練習している。</p>

準	運動の技能	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今できる技を繰り返してよりよくしたり、新しい技に挑戦したりすることができる。</li> <li>・集団での易しい演技をすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力にあった技を安定した動作で行ったり、連続技や新しい技に挑戦することができる。</li> <li>・集団で気持ちを合わせて運動することができる。</li> </ul>

## 2 指導計画と評価計画 (7時間)

過程	時間	学 習 活 動	支援及び指導上の留意点	評価項目(方法)
つ か む	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリエンテーション</li> <li>・学習の進め方を知る。</li> <li>・資料の活用の仕方を知る。</li> <li>○マット運動のゲームをする。 【見通し1】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画、活動内容の説明をする。</li> <li>・資料の活用の仕方を説明する。</li> <li>○回数や速さなどに注目するよう助言し、これからの練習に生かせるようにする。</li> <li>・技能面や勝敗にこだわり過ぎないように助言し、楽しく活動ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への興味もてる。 【関心・意欲・態度】 (観察)</li> <li>○仲間と協力して運動している。 【関心・意欲・態度】 (観察)</li> <li>・仲間と協力して積極的に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】 (活動の観察)</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今「できる技」「もう少しできそうな技」をチェックカードを使い確かめる。</li> <li>・学習カードに自分の課題を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題が確認できるようにチェックカードをもとに互いに見合いながら進めるよう説明する。</li> <li>・自己の能力に合わせて無理のないよう助言する。</li> <li>消極的な取組の者には、行い方を支援したり、必要に応じて補助をしたりしていろいろな技にチャレンジしてみるよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題をもつことができる。 【関心・意欲・態度】 (学習カードの記述)</li> </ul>
追 求 す	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の課題解決に向けて練習する。 (めあて1)</li> <li>今、できる技を大きな動作や調子よく行えるようにする。</li> <li>・課題に応じた、練習の場を選んだり工夫したりする。</li> <li>・資料をもとに技のポイントを確かめ、練習方法の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習が協力して効果的にできるよう、できるだけ同じ課題の者同士で組むよう配慮する。</li> <li>・課題に応じた練習の場を選べるよう、実態に応じた練習の場を準備する。</li> <li>・技や練習のポイントを示した資料を準備し、班ごとに配布しておく。</li> <li>・友達の技を見た後は必ず声をかけるよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力に応じた場や練習方法で取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】 (活動の観察)</li> <li>(学習カードの記述)</li> <li>・互いに励まし合い、教え合いながら取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】 (活動の観察)</li> <li>・自己の能力にあった技を繰り返し取り組み、より良く演技ができる。【技能】 (活動の観察)</li> <li>(学習カードの記述)</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集団演技を練習する。 【見通し2】</li> <li>・仲間同士で演技を見合ったり教え合ったりする。</li> <li>・アイデアを出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でもが楽しめるようやさしい集団演技となるように助言する。</li> <li>・個人の能力をもとに、グループの目標が無理のないように助言する。</li> <li>・マットの置き方や構成について十分話し合い、工夫をするよう助言する。</li> <li>・グループの目標が実態にあったものであるかどうかを確認し、適宜助言する。</li> <li>アイデアがうまく出せないグル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仲間と協力して練習をしている。 【関心・意欲・態度】 (活動の観察)</li> <li>・練習方法の工夫や演技構成の工夫をしている。 【関心・意欲・態度】 (活動の観察)</li> <li>(学習カードの記述)</li> <li>・集団で易しい演技をすることができる。 【技能】 (活動の観察)</li> </ul>

			ープには積極的にかかわり助言する。	(学習カードの記述)
る	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題解決に向けて練習する。</li> <li>(めあて2)</li> <li>もう少しでできそうな技や新しい技に挑戦する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題に応じた、練習の場を選んだり工夫したりする。</li> <li>資料をもとに技のポイントを確かめ、練習方法の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団演技のレベルアップを意識させ、学習への意欲をはかる。</li> <li>もう少しでできそうな技に積極的に取り組むよう、実態を確認しながら助言する。</li> <li>友達の技を見た後は必ず声をかけるよう助言する。</li> <li>前回に配布した資料を参考にするように助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の能力に応じた場や練習方法で取り組んでいる。【思考・判断】</li> <li>(活動の観察)</li> <li>(学習カードの記述)</li> <li>互いに励まし合い、教え合いながら取り組んでいる。</li> <li>【関心・意欲・態度】</li> <li>(活動の観察)</li> <li>新しい技や今まで練習した技がよくなっている。</li> <li>【技能】</li> <li>(活動の観察)</li> <li>(学習カードの記述)</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあて2で練習した技を取り入れて集団演技を練習する。【見通し2】</li> <li>仲間同士で演技を見直し合ったり教え合ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の練習成果が発揮できる構成になるように助言する。</li> <li>演技構成にマットの配置が合うように指示をする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの目標にあった演技構成であるか確認をし、適宜助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間と協力して練習をしている。</li> <li>【関心・意欲・態度】</li> <li>(活動の観察)</li> <li>よりよい演技構成にしようとして工夫している。</li> <li>【思考・判断】</li> <li>(活動の観察)</li> </ul>
まとめ	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団演技の発表会を行う。</li> <li>集団演技の発表を振り返る。【見通し3】</li> <li>今までの練習や発表会について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>努力の発表の場とし競うものでなく、認め合う場となるようにする。</li> <li>できるだけ一人一人のよかった点について、具体的に認め合う言葉を掛け合うように指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間の良さを認め合う。</li> <li>【関心・意欲・態度】</li> <li>(活動の観察)</li> <li>(学習カードの記述)</li> </ul>

## 研究の結果と考察

1 つかむ過程において、仲間と見合ったり励まし合ったりする活動を取り入れ、ゲーム的要素のあるマット運動を行うことは、マット運動の楽しさを味わううえで有効であったか

つかむ過程では、全員ができる技でマット運動に関連したゲーム（前転リレー、バランス競争、ボールキャッチ）を行った。グループ編成は男女混合で、練習の効率と、次の過程での活動を考慮し、6から7人とした。はじめに、前転リレーを2回行った。1回目は単に勝ち負けで歓声を上げている児童が多かったが、速かったグループを手本として、どこがよいのか考える場を設けたことにより、「ちゃん、うまい。」「ボールみたい。」などの声が聞こえた。作戦タイムとしてグループごとに話し合いをした後2回目を行ったが、どのグループからも「体を小さく。」「もっと丸めて。」などのアドバイスが聞かれ、ほとんどのグループが1回目の優勝タイムを上回った。また、他のゲームも同様にアドバイスやグループの応援も多く聞かれ、ほとんどの児童が楽しみながら取り組むことができた。

Aは初め、あまり興味がないのか、自分の順番がくるとただ黙々とゲームを行っていたが、

前転競争の2回目は、意識して一番速く回ろうとした。グループの仲間からも「Aちゃん速い。」と声をかけられうれしそうであった。ボールキャッチでは、すぐにボールを取ることができた。すると「おいしい」「もう少し」「前に投げた方がいいよ」などのアドバイスをAから進んで声かけするようになり、グループのリーダーとなっていた。『今の自分の力を知ろう』では、チェックカードをじっくり見てから、「これ何」「できるかな」などつぶやいていたが、仲間とアドバイスをし合いながら取り組むことができた。今までの体育の学習よりも、グループの仲間への声かけや取り組む回数が多くなり、教師側から見ると意欲的に活動していると判断できた。

Bは初め、列の最後に並び、怖々と前の子の動きを見ていた。自分の番がきたとき、周りの子の目を気にしているようでおどおどしていたが、失敗せずにできたのでほっとしている様子がうかがえた。その気持ちを後から聞くと、「自分は下手だから。」と言っていた。2回戦では、グループの仲間から「がんばれ。」と声をかけられ、少し笑顔が見られるようになった。バランス競争では、すぐに足をついてしまうが、笑顔でグループの女子を応援していた。ボールキャッチはとれなかったが最後まであきらめずに挑戦することができた。今まで友達と一緒に活動することが少なかったBが、仲間から声をかけられたことがうれしく「マット運動は嫌いだけど、今日は楽しかった。」「今度の時間は、前転をするんだ。」という声を聞くことができ、運動に対する意欲がもてたと考える。

マット運動に対して関心が薄かったり苦手としていたりする児童には、自分の力にあつためあてをもつことが難しいと思えたが、導入で取り入れたゲーム的要素の運動により、児童が興味をもち、仲間からの励ましやアドバイスもあり、ほとんどの児童がスムーズに自分のめあてを学習カードに記入することができた。また、毎時間の「振り返り」でも、自分から進んで取り組めた印や言葉が多かった。

以上のことから、つかむ過程において、ゲーム的要素の運動を取り入れ、仲間と励まし合ったり認め合ったりすれば、マット運動の楽しさを味わうことができたと考える。

2 追求する過程において、仲間と教え合ったり工夫し合ったりする活動を取り入れ、マットの集団演技を行うことは、学習に対する意欲を高めるのに有効であったか

追求する過程では、まずチェックカードや学習カードをもとに、みんなのできる技を取り入れ集団演技の構成を考えためあて1の技をもとに話し合いで構成を考える際に、一人ひとりの考えが生かされるように、各グループごとに用紙を配り、技の種目やマットの並べ方などを自由に書けるようにした。(資料1 集団演技の構成を練る様子参照)初めは、リーダーが発言し決定していたが、ある程度の構成が練られると、自分たちの考えた構成で練習を始めた。「あれ、場所が違う。」「Aちゃん速い。」などの声が聞こえ、考えたことと実際とのずれが生じ、すぐ話し合いに戻るグループもあった。しかし、どのグループも、ほとんどの児童が声を掛け合いながら活動するようになった。

Aはグループのリーダーとなり、集団演技の構成について話し合いをしているとき、「これを入れよう。」「この順番でしょう。」など進んで発言したり、「Bちゃんは何をしたい。」など他の子からの意見も取り入れるように発言していた。練習を始めると男女に分かれてしまったが、うまくいかないときはみんなで集まり話し合いをしていた。男子が技をそろえて行う練習をしていると、女子からタイミングをとる合図が自然にあり、男子の練習がスムーズにできた。これをきっかけに、女子が練習をするときもAは自分から手をたたき合図を送るようになった。

Bは集団演技の構成の話し合いの時は、グループの中にいるだけで、リーダーから「何をしたい。」と聞かれても自分の意見は言えずにいた。練習中は、「Bちゃん、もう少し手を前に出した方がいいよ」「もう少し早く。」などのアドバイスを受けると、楽しそうに活動するようになった。Bは仲間から声をかけられることにより、「自分もチームの一員だ」という仲間意識が

生まれ、活動意欲が高まったと考えられる。練習後の学習カードには、「友達がやさしい」と書かれていた。

一人で行う個人練習よりも、仲間と行うことにより、互いに教え合ったり、見合ったりするため、多くの児童が自己のめあてを達成していた。

前時で構成した集団演技をさらにより良いものにするため、もう一度構成を練り直したり新しい技を組み入れたりして、集団演技のレベルアップを図ることにした(めあて2)。グループごとに話し合いをした後、各自の新たなめあてで練習を行った。「僕はこの技をするよ。」「こうの方がいいよ。」などの声が聞こえ、練り直した構成に多くの児童の考えが反映されたようで、最初から活発に活動できた。時間になっても「もう少しだけ。」「あと5分。」という声が多く聞かれ、ほとんどの児童が休むことなく活動していた。自分の考えや技がグループに生かされる楽しさを感じているようである。

資料1 集団演技の構成を練る様子



Aは新しい技に挑戦していたが、なかなか思うようにできずにいた。数名が同じ技に挑戦しており、その子の動きや資料を熱心に見ていた。「手の位置を見て。」「5つ数えて。」「どうだった。」など意見を交換しながら活動していたがまだ完成はせず、全員で集団演技練習を行っていても、新しい技はうまくいかずそこで止まってしまった。不安そうであったが、演技には取り入れることにし前向きに取り組んでいた。

Bは、今できている技をさらにスムーズにしようと練習していた。自分から話すことが少なかったが、「手を見ていて。」「どうだった。」など、仲間に話しかけることが多くなっていた。全員での集団演技では、手をたたいて合図をする役割もあり、タイミングが合わなかったり、失敗をしたりするのではないかと不安そうではあったが、仲間に励まされながら一生懸命に取り組んでいた。

どのグループも準備運動から練習が終わるまで、休まずに取り組んでいた。また、けがや病気のために練習ができなくなってしまった児童もいたが、「合図ができるから」「みんなの演技を見たい」と自分のできることを熱心に取り組むことができた。

以上のことから、追求する過程において、集団演技を取り入れ、仲間と工夫したり教え合ったりすることは、共に活動するこちよさを知ることができ、学習に対する意欲が高まったと考える。

3 まとめの過程において、仲間と認め合う活動を取り入れ、発表会や話し合い活動をするこは、マツト運動の楽しさや喜びを実感するうえで有効であったか

「自分のグループの演技を見たい。」という意見もあり、また、振り返るときに参考にもなるため、ビデオ撮影をしながら各グループごとに発表を行った。予想以上に児童は緊張していたが、リーダーの合図のもと、どのグループも最後まで演技することができた。発表中、難しい技やそろった演技には、歓声や拍手が自然に起きた。(資料2 発表会の様子参照)なかには失敗してしまった子もいたが、周りからその子を責めるようなことはなかった。発表の後の感想では、「上手だった」「構成が面白い」「ちゃんの技がすごかった」などの意見が出され、どの班も満足していた。

Aのグループは、Aが手をたたいて合図を送り、スムーズに演技をすることができた。不安であった技もそるって行うことができ、「みんなで協力してよい発表ができた」「集団演技は楽

しかった」「できない技に挑戦したい」「マット運動がとても楽しかった」などの感想があった。体を動かすことが大好きなAだが、仲間とかかわることで苦手意識のある運動にも興味をもてるようになり運動がさらに好きになったと考える。また「ここをしっかりとの方がいい」と仲間からのアドバイスに素直に従い、「アドバイスがあったから技がよくなった」と友達のよさを付け加えていた。

Bは、演技中、合図を送る役割もあり、自分の演技だけでなく、仲間の動きをしっかりと見ながら手を

たたき、合図を送ることができた。「みんなと演技して楽しかった」「もっとしたい」「ちゃんがよく教えてくれた」など書かれており、学習カードの「楽しむ」の欄は全てであった。

どの班の感想にも、ゲームや集団演技を取り入れた今回のマット運動は、「おもしろかった」「もっとやりたい」「ちゃんって、すごい」など書かれており、マット運動というだけで苦手意識が強かった児童に、仲間とかかわる活動を取り入れたことにより、運動の楽しさだけでなく、仲間とかかわるよさにも気付くことができたと考える。

以上のことから、まとめの過程において、発表会や振り返りの話し合いを取り入れ、成果を見合ったり認め合ったりしたことは、運動の楽しさや喜びを実感することができたと考える。

#### 研究のまとめと今後の課題

仲間とかかわり合う活動は、マット運動に対して苦手意識をもっていた児童や技能の向上でマット運動の楽しさを感じていた児童も、ゲーム的運動や集団演技を行ったことにより、構成や場の工夫をする楽しさや仲間から認められること、仲間のよさに気付くことなどいろいろな場面でマット運動の楽しみや喜びを実感することができたと考える。また、構成をもっといいものにしたいという考えから、さらに新しい技に挑戦するなど、技能面が高まった児童も多く見られた。

まとめの過程では、自分の演技が仲間から認められたり、他のグループからも認められたことなどから、一緒に活動した成就感や達成感を共有することができたと考える。また、マットの準備や後かたづけなど、全員で取り組むことが多くなり、協力する姿が多く見られた。

「集団演技も楽しかったけど、自分のめあての時間がもう少しほしかった。」という意見も聞かれた。他の領域の運動や時数を考え、ブロック研修を通して年間指導計画の見直しなど今後の課題として取り組んでいきたいと思う。

#### 参考文献

- ・日本学校体育研究連合会機関誌 2001 11月号
- ・松田 恵示 / 山本 俊彦 『かかわりを大切にしたい小学校体育365日』 教育出版

資料2 発表会の様子

